



KOURAKUEN
CORPORATION

株式会社 幸楽苑

2025年3月期 第2四半期 決算説明会

2024年11月21日(木)



COPYRIGHT © KOURAKUEN CORPORATION All Rights Reserved.

目次

1. 代表取締役会長兼社長挨拶
2. 第2四半期決算ハイライト
3. 第2四半期決算概要
4. 通期業績予想（非連結）
5. 参考資料

1. 代表取締役会長兼社長挨拶

代表取締役会長兼社長挨拶①

- ・ここ数ヶ年、業績悪化を招いてしまい大変申し訳ありません
- ・今期は心配いりません。黒字の報告をお届けできる見通しです
- ・営業利益 中間連結実績、通期連結見通し（通期連結は参考数値）

（単位：百万円、百万円未満切捨）

営業利益	当初予想	実績値・修正見通し
第2四半期	250	427
通期連結（参考）	600	900

- ・何とか営業黒字を継続的に計上できる環境になってきました
- ・経営方針である「原点回帰」を掲げ、原理・原則に則り外食の原点である魅力ある商品作り、QSCの向上を徹底して活動
- ・その結果、2023年8月からは単月黒字決算となり、その後はこの9月まで単月での黒字決算を14ヶ月連続で達成
- ・既存店前年比は上期累計で売上115.4%・客数113.5%の実績

代表取締役会長兼社長挨拶②

- ・ 不採算店舗の閉店により9月末で前年対比49店舗の減少
- ・ しかし、全店前年比は売上・客数ともに103.9%と前年を超える結果。既存店売上が前期比で1店あたり月間80万円増加

● 業績回復に至った3つの活動

1. 商品施策・毎月のスポットメニュー

- 上期14品のスポット・シーゾナルメニュー（月2品前後）
- 公式アプリや公式SNSの活用・デジタルマーケティング
- メガたんめん・メガつけめんは若いお客様に大好評
- 値上げ感のない客単価向上対策
商品価値を伝えることで1つ上の価格設定
- 製造直販のためスピーディーに開発できる仕組み
- 定番商品の中華そば・味噌らーめん・塩らーめん
490円を変更せず、客単価を上げることに成功



代表取締役会長兼社長挨拶③

● 業績回復に至った3つの活動

2. QSCの向上・組織体制の見直し

- 復帰した時、店舗を管理・監督するエリアマネージャーが4名
- 復職希望者に声掛けし昨年5月に3名復職、1年で18名迄増加
- 現在は20名体制 350店舗を管理できる体制へ戻しました

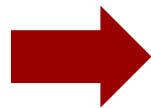
3. 店長教育・店長会議の復活

- 私が経営をしていた時代は店長会議を全国3ヶ所で月1回開催
 - 経営哲学や重点取組みの伝達・本部とのコミュニケーション
 - 前体制時にコロナ禍もあり廃止 ⇒ リモートによる会議再開
 - 「会社の経営方針が分かってうれしい」「不安が解消された」等々のうれしいレポートも聞こえるようになってきました
- 商品の見直し・店の管理体制・モチベーションの向上

単純ですが当たり前のことが業績回復に繋がりました

代表取締役会長兼社長挨拶④

- これから取り組んでいく活動は既存店のリニューアル
- 10月、FCいわき泉店の直営化に伴い、幸楽苑のイメージの黒・黄色へ変更、内装を修繕
- 売上伸長率147%、月商1,000万円を超える店舗になりました



- 順次、既存店のリニューアル・居心地の良い店舗を作ります
- 最後に、復帰後約1年半で軌道に乗り始め上方修正が出来ました
- 経営方針である「原点回帰」のもと、外食の原点である魅力ある商品作り・QSCの向上・店舗リニューアルをおこなっていきます

お客様に満足していただける店舗作りを進めてまいります

2. 第2四半期決算ハイライト

連結決算ハイライト①

- 2025年3月期第2四半期の概況は、インバウンド需要増加などで、外食需要全体は順調に拡大しておりますが、原材料費、水光熱費、人件費などの上昇により厳しい経営環境が続きました
- このような中、当社は「外食の原点である魅力ある商品作りとQSCの向上」を掲げ、毎月の期間限定商品販売や、時間帯限定「中華ダイニング」の販売、グランドメニュー変更による商品の入替え、「中華そば」を始めとする定番商品の価格維持などに取り組みました



連結決算ハイライト②

- 以上の結果、当中間連結会計期間は、売上高13,713百万円、営業利益427百万円、経常利益403百万円、親会社株主に帰属する中間純利益512百万円となり、3年振りに中間純利益を黒字化することができました
- 2025年3月期は、継続して毎月のスポット商品販売、郊外店全店の23時まで営業時間延長、店長会議開催による店長教育の継続、既存店の店舗リニューアルを進めていく方針です



23時まで営業店舗
順次拡大中!



営業時間延長店舗一覧は公式HPへ

連結決算ハイライト③

- これらの施策を実行することで、上方修正した通期連結営業利益900百万円を達成できるよう取り組んで参ります
- 尚、当社は本年10月1日付で完全子会社「株式会社幸楽苑」を吸収合併し、社名を株式会社幸楽苑HDから株式会社幸楽苑へ改称いたしました。また、本合併に伴い第3四半期決算より非連結決算（個別決算）会社として業績開示を行います。



3. 第2四半期連結決算概要

第2四半期（中間期）連結損益計算書

- 不採算店閉店により店舗数は9月末354店舗（前年比▲49店）
- 夏季商品、スポット商品をデジタルマーケティングで来店訴求
⇒売上高137億円（+5.0%）、売上総利益96億円（+4.1%）
- 販管費は外部委託を見直し削減、営業利益4億円（前期+8億円）
- 中間純利益5億円 税金費用（法人税等調整額）減少で増加

（単位：百万円）

	2023年9月期		2024年9月期		前期比 前期差異
	金 額	売上高比	金 額	売上高比	
売上高	13,063	100.0%	13,713	100.0%	5.0%
売上原価	3,767	28.8%	4,031	29.4%	7.0%
売上総利益	9,295	71.2%	9,681	70.6%	4.1%
販売一般管理費	9,705	74.3%	9,253	67.5%	△4.7%
営業利益	△409	—	427	3.1%	837
経常利益	△421	—	403	2.9%	824
親会社株主に帰属する 中間純利益	△253	—	512	3.7%	766

売上増加・コスト削減により黒字化となりました

連結貸借対照表

- 有形固定資産は、減価償却、店舗譲渡により344百万円減少
- 固定負債は、黒字化に伴い営業CF+8億円創出し、長期借入金10億円を期日前返済したことにより1,098百万円減少
- 純資産は、中間純利益512百万円を計上し増加

(単位：百万円)

資産の部				負債・純資産の部			
	2024年 3月末	2024年 9月末	増減額		2024年 3月末	2024年 9月末	増減額
流動資産	3,337	3,176	▲161	流動負債	6,078	6,201	122
固定資産	7,129	6,829	▲300	固定負債	2,685	1,586	▲1,098
有形固定資産	5,344	4,999	▲344	負債合計	8,763	7,787	▲975
無形固定資産	120	111	▲9	純資産	1,703	2,217	514
投資その他の資産	1,664	1,707	54	負債・純資産 合計	10,467	10,005	▲461
資産合計	10,467	10,005	▲461				

自己資本比率は22.1%で前期末比5.9ポイント改善しました

コスト削減の状況

- 人件費は、就労管理を強化しパートナー給が減少しましたが、業績回復により賞与を増額支給しました
- 経費は、不採算店閉店による賃借料減少、業務委託の見直しで支払手数料を削減しました

(単位：百万円)

	2023年9月期	2024年9月期	削減額
	金 額	金 額	金 額
人 件 費	4,712	4,740	28
パートナー給	2,968	2,860	▲107
賞 与	125	277	151
経 費	4,992	4,513	▲479
賃 借 料	1,521	1,338	▲182
支払手数料	725	549	▲176
減価償却費	474	380	▲94

今後も更なるコスト削減により収益性向上に努めます

資金繰りと財務状況について

第2四半期の財務施策

- 営業CF+8.3億円創出、長期借入金10億円期日前返済を実施
⇒有利子負債残高27.7億円（前期末比▲8.8億円▲24%）
- 不採算店舗譲渡及び、敷金保証金戻りにより2.6億円回収

財務状況

- 現預金残高20.3億円
- 財務基盤安定化のために行ったコミットメントライン
⇒コミットメントライン枠20億円のうち10億円が未使用

現預金残高と未使用枠を合わせ30億円の資金余力

十分な運転資金を確保しております

4. 通期業績予想（非連結）

今後の見通し

事業環境

- 外食産業は昨年からの行動制限緩和、円安進行に伴うインバウンド需要の増加により来店客数は順調に拡大する一方で、不安定な国際情勢と円安による物価高のため厳しい事業環境が続くと予想します
- 当社を取り巻く環境は、引き続き来店客数は堅調に推移すると見込んでおりますが、店舗運営コスト（原材料費・人件費・水光熱費等）の高止まりにより厳しい経営環境が続くと考えております

当社の取り組み

- グランドメニュー変更（9/11 定番商品の価格維持と商品入替え）
 - 季節感のあるスポット商品の継続的な販売（魅力ある商品提案）
 - 新たな客層をターゲットに「メガ」シリーズ販売（新たな顧客獲得）
 - SNSを用いたデジタルマーケティング強化（来店訴求）
 - 原点に立ち返ったQSC（品質、サービス、清潔さ）の向上
 - 既存店リニューアルの実行
- 以上により、お客様に親しまれる店舗づくりに取り組みます

非連結通期決算（個別通期決算）数値

- 2024年10月1日付で、完全子会社「株式会社幸楽苑」を吸収合併いたしました。連結子会社がなくなりましたので、第3四半期決算から「非連結決算」（個別決算）数値で決算開示を行います
- これにより、非連結通期見通しは記載の通りとなります

（単位：百万円）

	通期見通し
売 上 高	18,500
営 業 利 益	450
経 常 利 益	400
当期純利益	800

安定的な営業利益黒字化に取り組めます

2025年3月期の連結数値目標（ご参考）

- 通期見通しは、上期の状況が下期も堅調に継続すると想定し
売上高275億円、営業利益9億円、経常利益8.3億円、
当期純利益7.8億円を見込んでいます

（単位：百万円）

	上 期		下 期		通 期	
	実績	前年 同期差	見通し	前年 同期差	見通し	前年 同期差
売上高	13,713	649	13,786	49	27,500	699
営業利益	427	837	472	29	900	866
経常利益	403	824	426	111	830	936
親会社株主に帰属する 当期純利益	512	766	267	▲80	780	685

営業利益6億円から9億円に上方修正いたしました

配当について

- 2025年3月期の期末配当は、今後の財務状況などを総合的に勘案した結果、財務健全性の改善に最優先で取り組む必要があると判断し、誠に遺憾ではございますが無配とさせていただきます

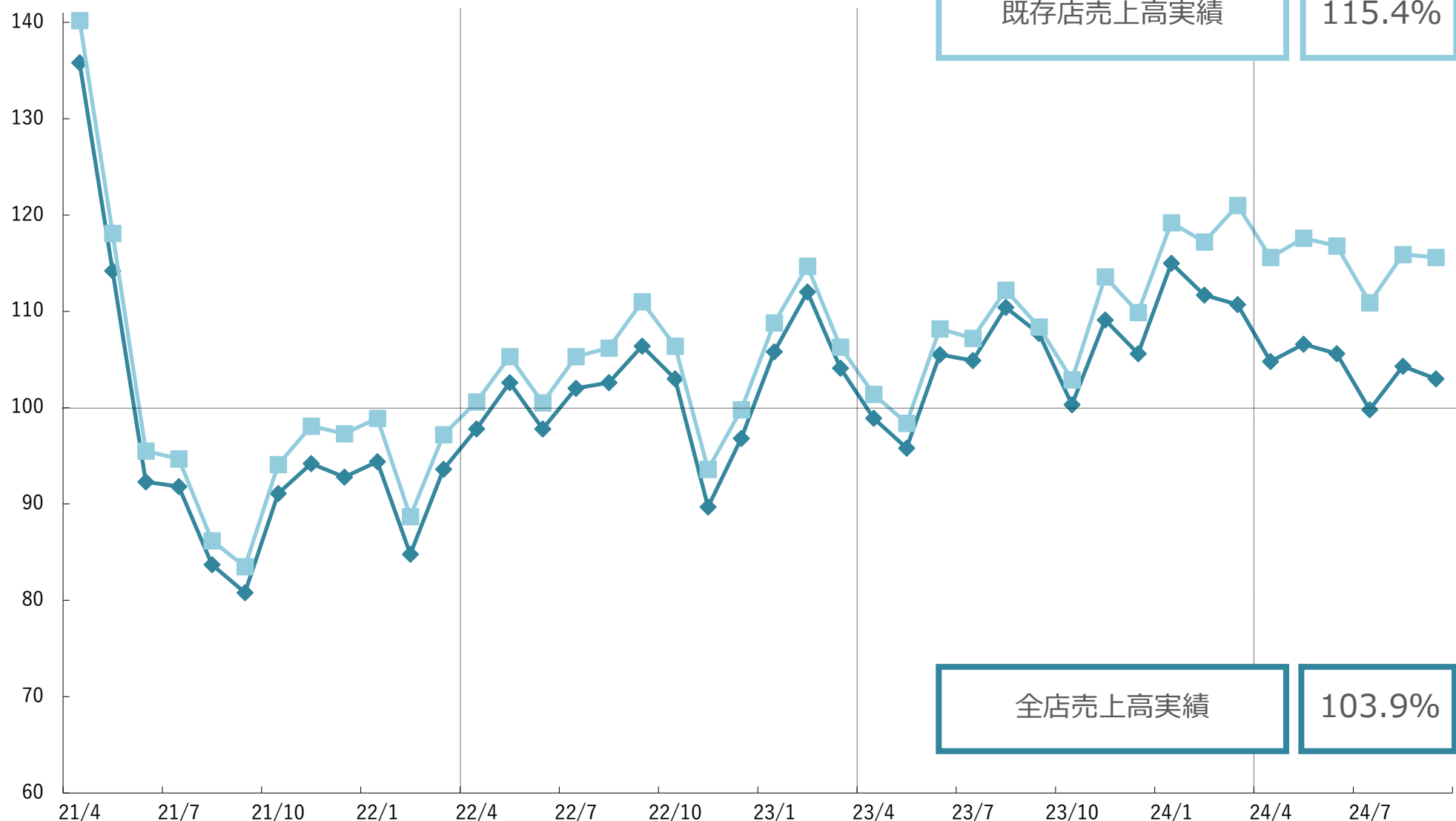


早期に復配できるよう全社挙げて業績回復に取り組めます

5. 参考資料

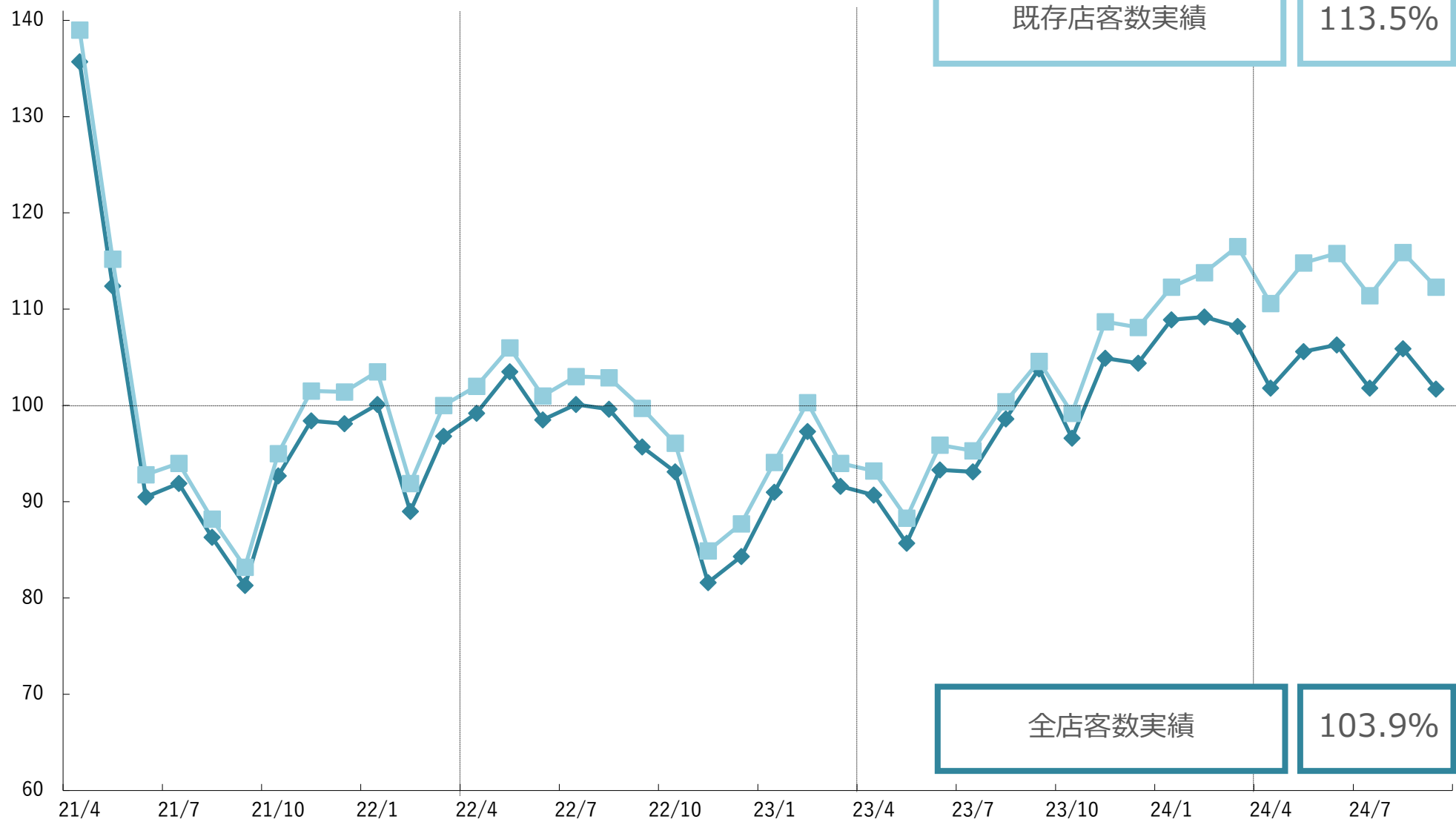
直営店月次売上高推移（前期比）

（単位：％）



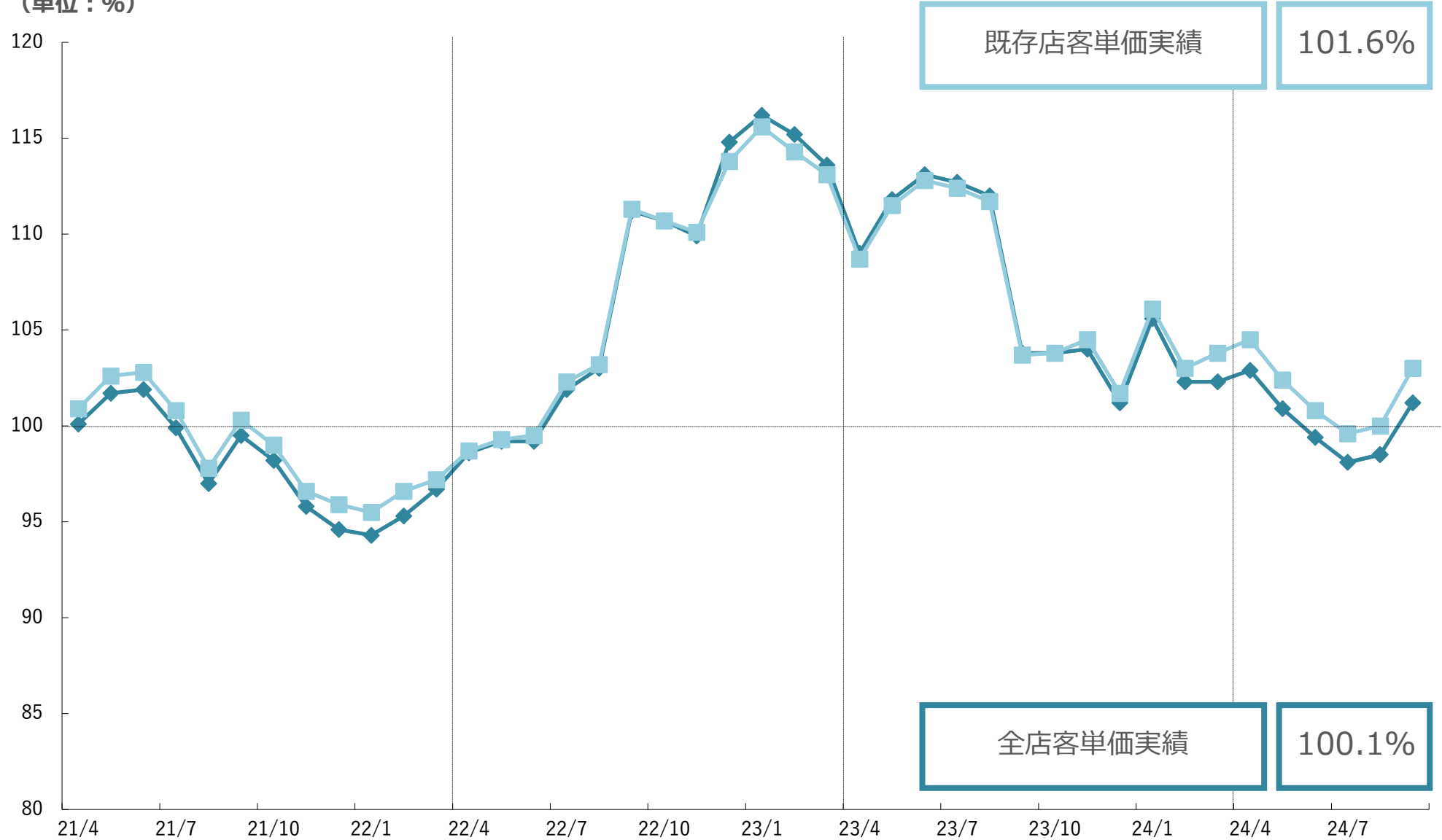
直営店月次客数推移（前期比）

（単位：％）



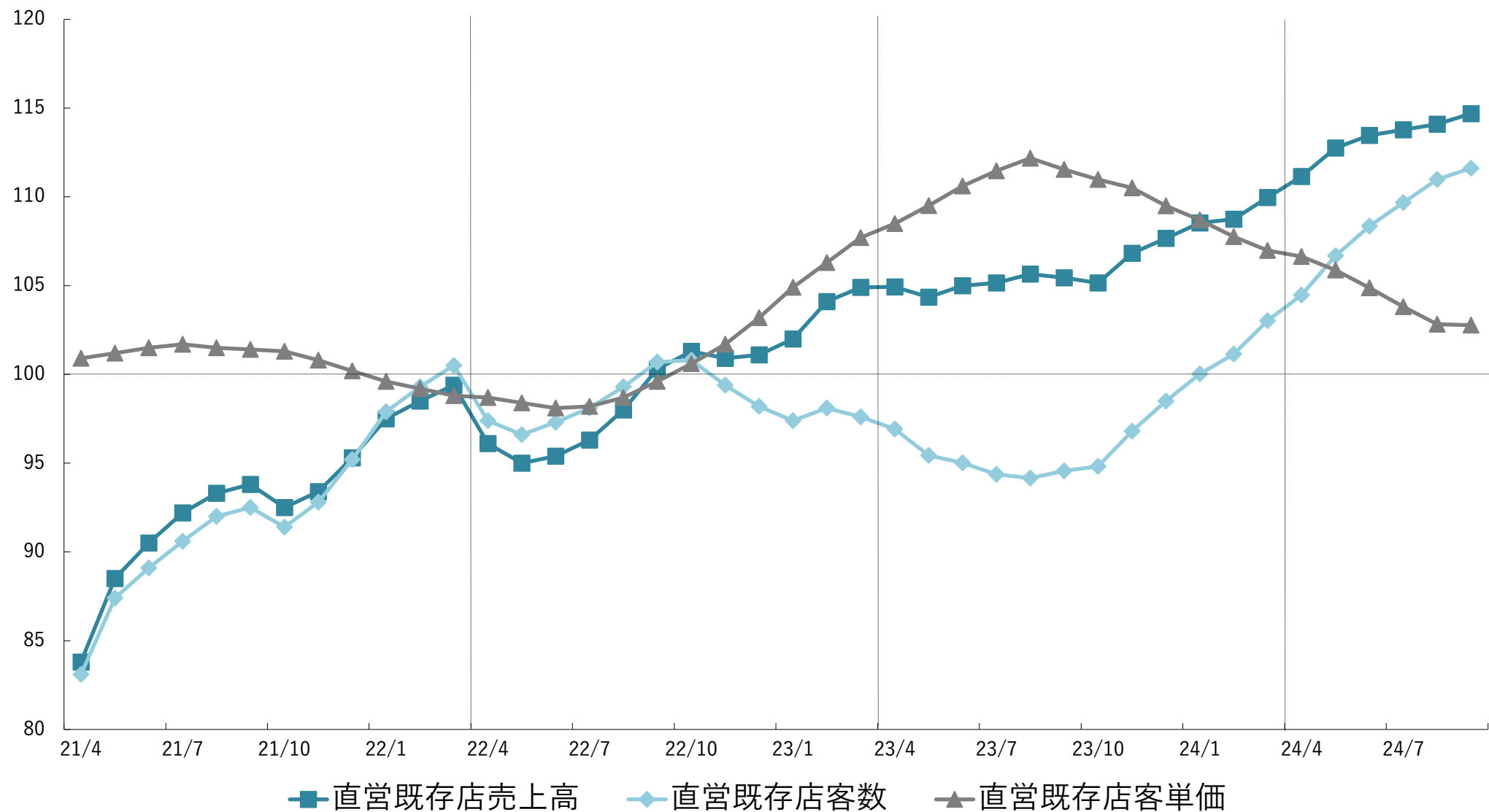
直営店月次客単価推移（前期比）

（単位：％）



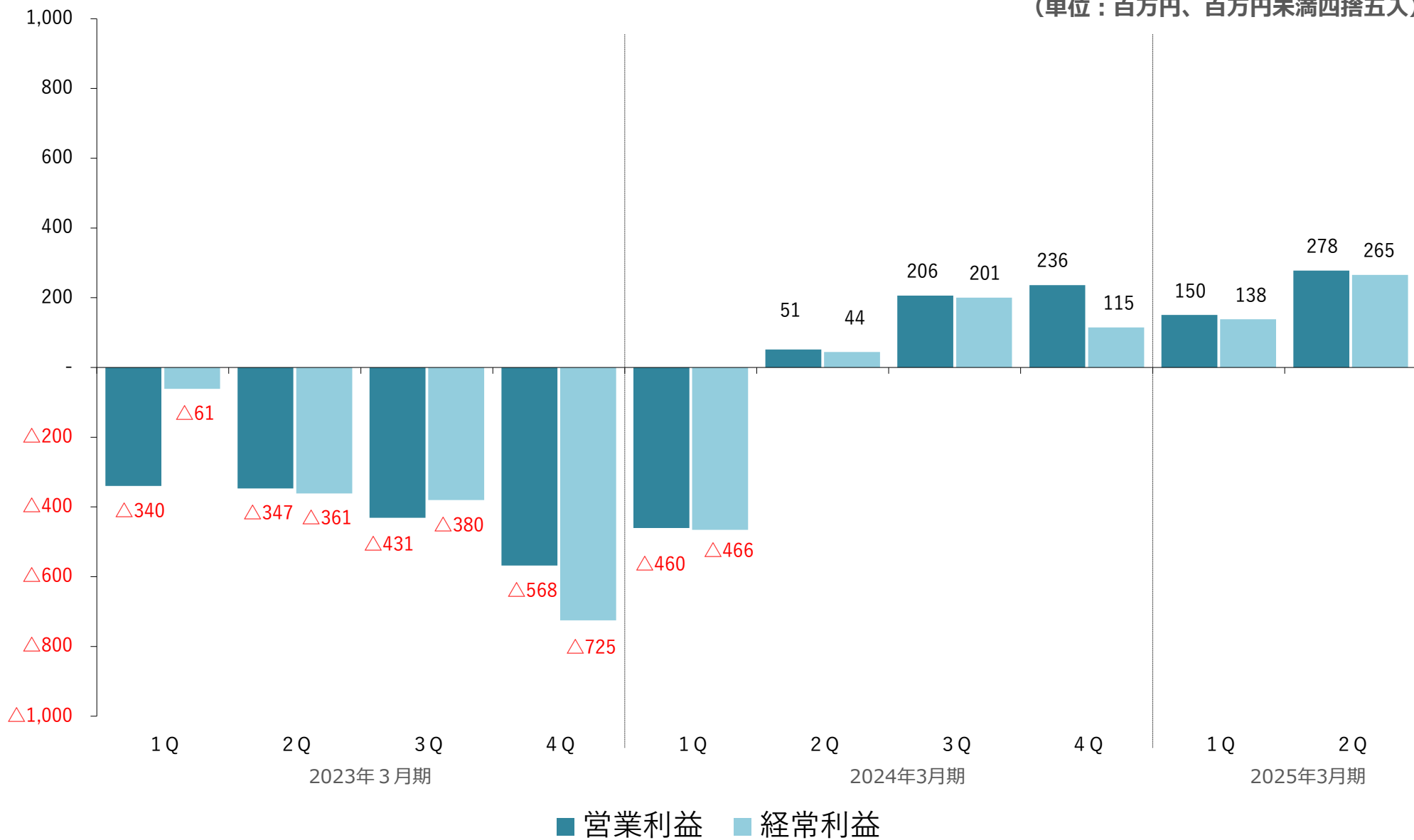
直営既存店月次推移（前期比・12ヶ月移動平均）

（単位：％）



四半期業績推移

(単位：百万円、百万円未満四捨五入)



営業店の推移

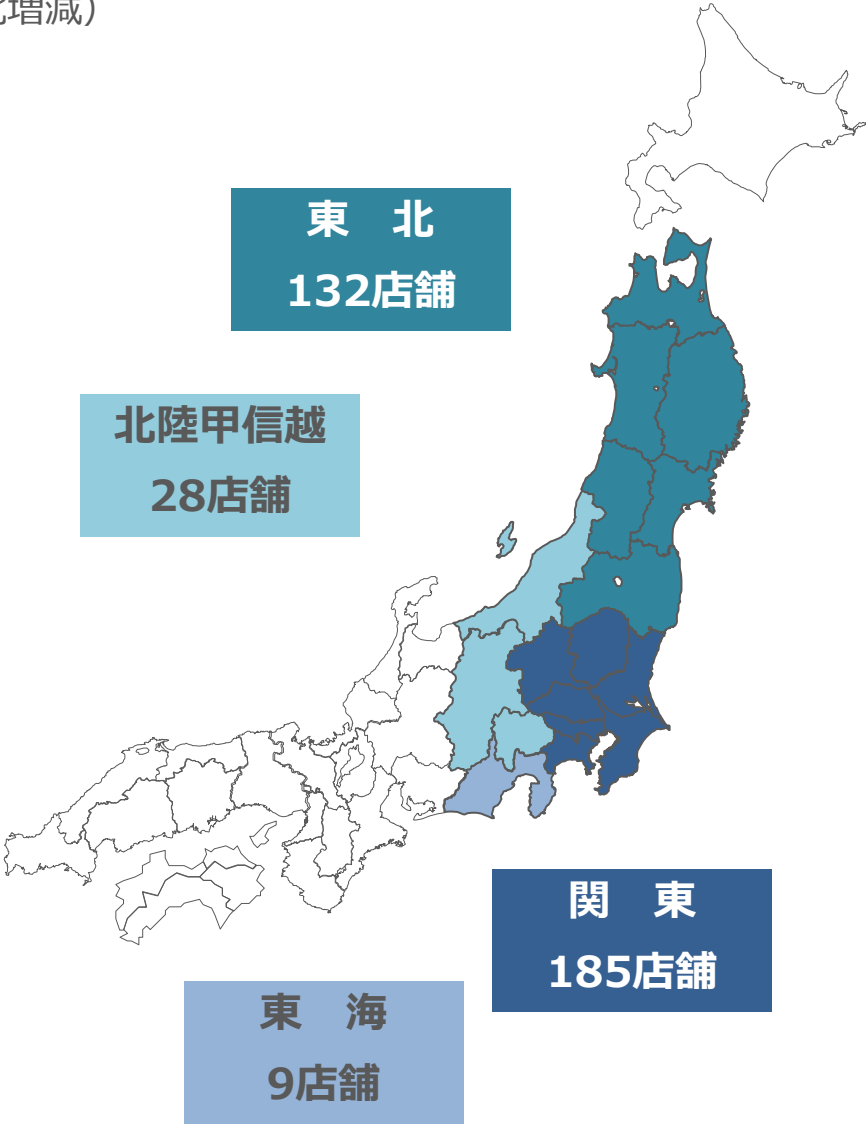
店舗のタイプ	2022年3月末	2023年3月末	2024年3月末	2024年9月末
幸楽苑（国内）	393	383	359	347
焼肉ライク	12	12	8	5
焼肉食堂まんぷく	-	-	1	1
からやま	7	7	-	-
赤から	5	5	-	-
幸楽苑の家系らーめん トラック野郎 since2021	2	2	-	-
餃子の味よし	1	4	1	1
餃子食堂	2	-	-	-
VANSAN	1	1	-	-
幸楽苑（直営店）	423	414	369	354
幸楽苑FC（国内）	12	12	13	12
幸楽苑FC（海外）	5	5	7	7
幸楽苑FC 計	17	17	20	19
グループ合計	440	431	389	373

当社の直営店舗出店状況

◀国内都道府県別店舗数▶2024年9月末現在（2024年3月末比増減）

青森県	9店舗	-	埼玉県	33店舗	△2
岩手県	9店舗	-	千葉県	31店舗	△7
宮城県	40店舗	△1	東京都	24店舗	△2
秋田県	14店舗	-	神奈川県	31店舗	△2
山形県	14店舗	-	新潟県	15店舗	△1
福島県	46店舗	-	山梨県	6店舗	-
茨城県	36店舗	-	長野県	7店舗	-
栃木県	20店舗	-	静岡県	9店舗	-
群馬県	10店舗	-			

国内：17都県 354店舗





KOURAKUEN
CORPORATION

株式会社 幸楽苑

2025年3月期 第2四半期 決算説明会

2024年11月21日(木)